

町「自動車運転免許自主返納サポート事業」好評

同事業は、運転に不安を抱える高齢者が運転免許証を自主的に返納しやすい環境をつくり、充実した生活が続けられるよう、申請のあった返納者や失効者に対し「白老町地域公共交通共通回数券」（9冊：1冊12枚つづり）を配布しています。

6月15日には苫小牧警察署と合同で「運転免許証返納等出張窓口」を役場内に設け、同窓口で自主返納した方にその場で地域公共交通回数券を配付しました。

会場には列ができ、80歳女性は「子どもたちにも言われていました。何かあって後悔するより、返納したら安心です。ここで二つ一緒にできて手間がかからなかったです」と交通回数券を受け取っていました。この日は7人が返納し、9人に交通回数券を配布しました。

対応に当たった同署交通第一課の近藤寛由さんは、当日前に発生した管内の高齢者ドライバーによる死亡交通事故に痛ましさをにじませ、「家族も不安です。運転に不安を抱えていれば返納も視野に考えてください。相談にも応じています」と呼び掛けていました。同署管内で今年の免許返納件数は約550件ありました。

町総務課防災交通室の金子直樹さんは「7月6日現在で交通共通券の申請が30人の方からありました。まだ続けていますのでこの機会に返納の検討を」と話していました。

交通共通券の配布対象者は、町内に住所を有する70歳以上の方で、運転免許証を自主返納した、または免許更新しなかった方です。詳細は町ホームページ、または同室（☎85-3080）か政策推進課（☎82-8213）へ。今回同様の窓口は10月にも予定しています。



町地域おこし協力隊に 山岸さん仲間入り 文化芸術振興に期待

地域おこし支援や地域協力活動を通しまちの活性化に一役買う地域おこし協力隊。山岸奈津子さん(42)は札幌市出身。星野リゾート・トマムで10年間、企画・広報マネジャーを務めた後、広報・PRプランナーとして独立しました。星野時代に白老の食の取材で訪れ、近年は個人的にさまざまな白老の文化・観光プロジェクトに携わるなど人との出会いを通して「まちの高い可能性を感じました。文化芸術分野で活動している方も多く、手助けができれば」と応募しました。

戸田安彦町長の激励を受け、「まちが元気になる仕掛けをしていきたい」と抱負を話していました。協力隊は現在、食と観光振興1人、森林ガイド1人、観光振興3人、アイヌ文化振興1人で、山岸さんを含め7人となりました。(7月7日)

と声でもスマれたらどもにも下レッシウポシパのウレ
ても説明を聴けるので、音にたが、樹木につけられたQRコードにスマホをかざすと、音でもとお散歩に行きまとも協力しました。子どももお散歩に行きました。子どももお散歩に行きました。子どももお散歩に行きました。

白老に移住して8ヶ月が経ちました。5歳になった息子は友達もたくさんできて、すっかり白老の子です。仕事でどうしても夕方に活動しなければならぬことも多く「楽しく3・9」にお世話になってきました。その縁もあって、8月4日に「4コマ漫画を描こう」という講座の講師をすることになりました。興味のあるお子さんは、一緒に楽しくお絵描きをしましょうね！



乾藍那さん(35)
アイヌ文化振興担当(1年目)

地域おこし協力隊通信

すてきな出会いが活動の源

「しらおい親子の劇場」では、8月20日の「わくわく！演劇とむかし遊びを楽しむワークショップ」のポスターを作りました。白老ではイベントもみんなで作り上げるし、参加者の顔が見えるのが魅力だと思います。そうして知り合った方たちは、本当にすてきなアクティブで、札幌にいたときにはなかった出会いがありました。今後の活動の中で、ウポポイやウレシパの杜など、休日に子どもたちを連れて行ってあげたいと思っています。



お子さんの参加希望の方はtanto.tanta.shiraouiのインスタグラム・フェイスブックのDMか、電話（070-2642-6587）で問い合わせしてください。